



きものをはおったら、衿を持ってきものを持ち上げ、くるぶしが隠れるぐらいに丈を決めます。



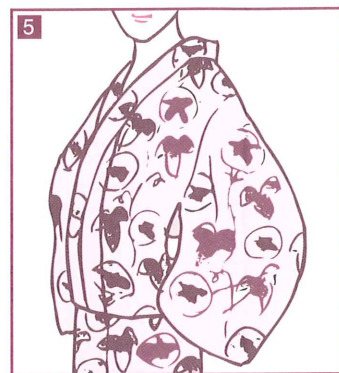
次に上前の衿下線が右腰骨あたりにくるように、上前の幅を決めます。



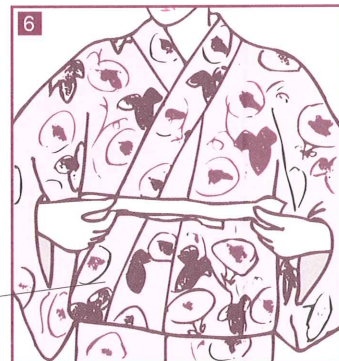
上前をいったん広げて、下前を左腰に入れ込みます。下前の襷先（つまさき）は7～8cm引き上げておきます。



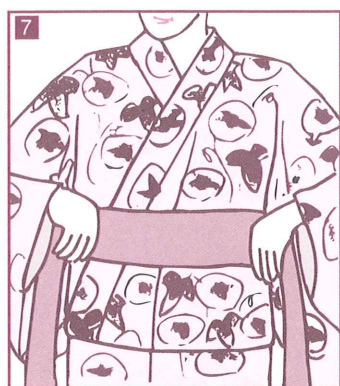
上前を合わせて、襷先を3～4cm引き上げたのち、ウエストまたは腰骨あたりで腰紐を締めます。



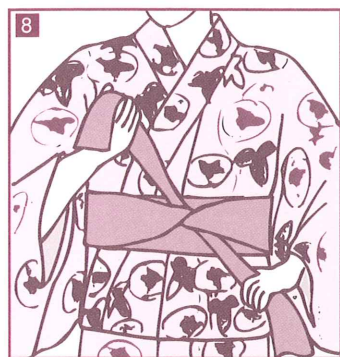
右手で上前の衿を、左手で身八つ口から下前の衿を持ち、前衿と前後のおはしりを整えた後、背中心を正し、衿の抜き加減を決めます。



前衿を合わせ、ウエスト、またはアンダーバストあたりで、もう一本腰紐〔別名胸紐（むなひも）〕を締めます。身八つ口もきれいに整えます。



腰紐を締めた後、後ろのおはしりを下にひいて、衿の抜き加減を調整したのち、腰紐の上に伊達締めをあてます。



後ろで交差させた伊達締めは、前に回して2回からげて、左右にねじって、挟み込みます。



ゆかたはきりりとこざっぱりした印象になるように、普通のきものより短めに着ます。

おはしり

【補正】

ゆかたは凹凸のない体型のほうが、よりきれいな仕上がりになります。補正は着くずれを防ぐためのものです。必ず必要というわけではありませんが、知っておくと便利です。補正方法も体型により違いがありますが、ここでは基本として、ウエストのくびれにタオルによる補正をご紹介します。ハンドタオルを縦に二つ折りして腰紐をはさんで、ウエストに巻きつけて、紐で固定し、胸の凸凹をなだらかにします。

半幅帯の結び方

人気の文庫の結び方です



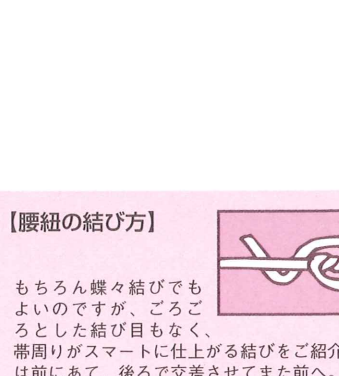
帯のて先を70cm前後とり、体の中心に合わせてから、たれを胸に巻きつけます。



帯はて先を上にはいと巻きしたのち、軽く締め、もうひと巻きします。



て先とたれは半分折り、て先が上になるように、前でしっかり結びます。



さらにて先をもう一回巻きつけます。

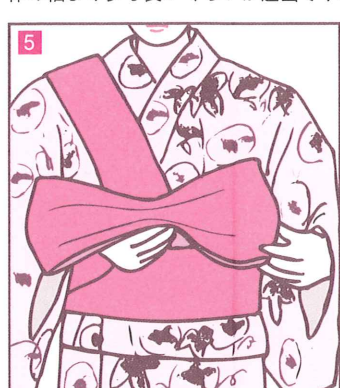
【腰紐の結び方】



もちろん蝶々結びでもよいのですが、ごろごろとした結び目もなく、帯周りがスマートに仕上がる結びをご紹介します。紐は前であて、後ろで交差させてまた前へ。体の中心を避けて、2回からげて、交差させ、紐の端は下から上に挟みます。



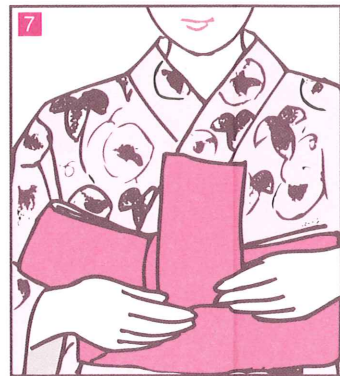
て先は肩に掛け、たれを三つ折りして羽根を作ります。文庫の羽根の長さは体の幅より少し長いぐらいが適当です。



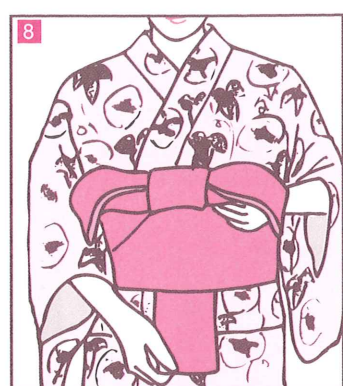
たたんだ羽根の中心に山ひだを作り、あとから脇のひだを寄せると、きれいに仕上がります。



肩に掛けていたてを、羽根のひだの中心にかぶせて、ひと巻きします。



さらにて先をもう一回巻きつけます。



残りのて先は帯の内側に差し込みます。胴帯の下に引き出します。



文庫結びでは羽根が下向きになるよう羽根の形を整えます。



結び目を右手で、胴帯を左手で持ち、時計回りに羽根を真後ろに回します。前で帯の隙間に帯板を差し込みます。背中心やおはしりのしわがでないように整えます。



帯の下から出ていたて先は、折り返し、帯の中に丸めてしまい込みます。ゆるみがあるときには、小さなタオルを入れると、きれいに仕上がります。

胴帯